

■R01.11.13 市長定例記者会見内容

日時 令和元年11月13日(水) 午前11時～正午

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、地域創生部交流推進調整監、教育次長、企画調整課長、市長公室長
酒田記者クラブ 7社(山形新聞、荘内日報、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、SAY)

■市長発表内容

なし

■懇談・フリー質問

【酒田港のコンテナ輸出】

記者／酒田港のコンテナ輸出量の前年同月比の数字が、13か月連続で減少している件について、コンテナ取扱量の現状と、増減の理由(実態がどうなっているか)。またそれに伴い、雇用や地元産業に影響は出ていないのか

市長／8月は増えている。年間ではもしかしたら減るかもしれないが、今後ずっと減少するものではないのではないのではないかと期待感を持っている。細かなデータは部長から。

地域創生部長／今年8月までのコンテナ取扱貨物量は16,819TEUとなり、前年同月までの累計貨物量より1,666TEU減少している。酒田港のコンテナ貨物量は大口荷主(花王)が7割を占めていることから、その動向による影響は大きい。ただし、6月以降の各月は前年同月の貨物量を上回っており、また8月は、中国でのインターネット販売の増加に伴う貨物量の増加もあり、月別では過去2番目の貨物量(2,996TEU)となるなど、回復傾向にあると聞いている。

1～6月までの品目を見ると、100億円以上の取引のうち、落ち込んでいるのが電子機器、半導体電子部品と紙おむつを含むその他雑製品。大きな世界の経済の枠組みで影響を受けていると捉えているが、地域経済には大きな影響は受けていないと考えている。

【新潟・庄内DC】

記者／新潟・庄内デスティネーションキャンペーン(DC)が折り返しを迎えているが、酒田での盛り上がりが出ていないという印象がある。酒田市におけるDC関連の取り組みについて聞きたい。

市長／酒のイベント時に天候不良だったりはあるものの、特に酒田が盛り上がっていないとは思っていないが、いっそう頑張らなければいけない。

交流推進調整監／庄内のメインとなる酒のイベントには 2,600 人くらいの賑わいがあった。女子会ブースもあり、男女の垣根なく堪能してもらった。観光列車の海里はほとんど満席で新潟・酒田間を運行しており、新潟から来た乗客は鶴岡で半分、酒田で半分降車している状態が続いていると聞いているほか、SLも好評だったと聞いている。詳細なデータはまだ把握できていないが、観光施設でも昨年に比べて動きがいいとの事。セブンイレブンや各施設にパンフレット等を設置している。回遊性高めるクーポン券も付いているので活用してもらいたい。二次交通の課題には、移動しやすいように目的地別のバス時刻表も整備して、地域内の回遊性を高めたいと準備を進めた。

記者／目的地別のバス時刻表は酒田市独自の取り組み？

交流推進調整監／そのとおり

記者／今後の取り組みは？

交流推進調整監／駅でのおもてなしは毎週のようにやっている。現状を把握して、観光施設にも適切な情報提供をしながら進めていきたい。

市長／入れ込み客数は増えているので酒田も頑張っているが、庄内で見ると、鶴岡はDMOが活発に動いているということもあるし、酒田は宿泊施設がないのもあり多少見劣りするかなと思っている。今後はいろいろ仕掛けをもっと磨いていかないといけないし、そのためにもDMO組織や山居倉庫近辺の整備を今後やっていかなければならないという思いでいる。

【黒森歌舞伎ポーランド公演】

記者／ポーランド訪問の様子、手ごたえなどについて

市長／顧問として同行したが、歌舞伎の公演自体やさまざまなワークショップが総じて好評だった。ポーランドが歌舞伎に対して興味津々のところに行ったという感じでタイミングが良かったし、アピールもできて有意義な公演だったと思う。ポーランド側からはまた来てほしいという声もあった。できれば継続的にやっていきたいが、ここまでの取り組みはいまだかつてないことで、お金やマンパワーがかなりかかっている。毎年やるのは大変だが、国にもしっかりアピールしていきたい。まずは今回の公演に携わった関係者に御礼申し上げたい。大変すばらしい公演だった。

教育次長／小さな村で何百年も繋いできたものが世界でも通じると黒森の方も肌で感じ、これからも繋いでいこうという大きな自信になったのではないだろうか。公演では、観客が泣くような場面で笑うという mismatch もあったので、その辺は検証していきたい。今回の公演は黒森のパワーに連れて行ってもらったという印象。

市長／ポーランドで公演をするにあたり、エージェントを挟むことなく市の職員がやった業務も大変な業務だったと思う。酒田市役所の底力を見せてもらったという印象。

記者／今後、黒森歌舞伎の魅力を国内外問わず発信する取り組みは

市長／現在、県の無形民俗文化財となっている黒森歌舞伎だが、ポーランドにとっては

黒森歌舞伎が初めての公演で、地芝居のPRができたと思っている。市民からも認知してもらいたいし、今後も伝承されていくように行政としても後継者育成に力を入れる必要性があると感じた。

記者／国の文化財指定も考えているのか？

市長／そのくらいのパワーがある文化財だと思っている。黒森歌舞伎の関係者と協力して取り組み、国に評価してもらえようアピールしていきたい。

記者／以前、鶴岡市が海外で事業を行った際には、現地から素材の提供を受け、リアルタイムで情報発信につなげたことがあった。もっと積極的に市から情報を出してもらえれば記事にする。人員に余裕が必要なのはわかるが考えてもらいたい。

【かんぼの宿】

記者／かんぼの宿の利活用に進展は？

市長／市への正式な接触はまだない。

【イージス・アショア再調査】

記者／イージス・アショアの再調査について、なにか話は入っているか？

市長／なにも接触がないので、報道されている以上の情報はない。これからもしアクションがあれば検討しなければならないと思う。

【ごみ減量】

記者／ごみについて市の広報紙でとりあげていたが、ごみ有料化はどう考えているか。

市長／ごみは減量しないとこれから多額の費用がかかるので、その点でいろいろ取り組んでいる。有料化に関しては、ごみ処理は広域で取り組んでいるので、関係する自治体とも協議しながら慎重に考えていかなければならない。人口も減っている中で、ごみ処理をどうするかは避けては通れない課題。市民を巻き込んで議論していきたいが、ごみの有料化ありきでなにか準備しているわけではない。

記者／行財政計画ではごみ有料化推進の予定を伸ばしたと思うが、市長の考えを反映したもののか？

市長／そのとおり。内部の検討は検討として、私としては有料化のスピードアップなどを今は考えていない。広報での啓発や所管部局で出前講座をするなど、市民とやり取りはしているがまだまだ足りない。市民が納得していればゴーサインが出せるが、まだそうではないと思っている。今の施設を導入した時に、細かな分別をしなくてもよくて市民にとって便利ということで溶融炉を導入した。有料化に関しては、行政も市民もやれることをやってからという思いがある。

記者／市外からは自然に優しい酒田というイメージもあると思う。そこでごみ排出量が多いとイメージと現実乖離があるのかなと思う。

市長／ごみは産業廃棄物や家庭系などいろいろある。全体で議論すべきであり、一部だけ切り取って有料化というのは財政が苦しい行政のご都合主義ではないかなと思っている。特に行政で使用する紙は非常に多いので、ペーパーレスにするなどできないかと思っている。ただしこれは事業系のごみ。そういったことも踏まえて事業系や産業廃棄物などを含めたごみ全般で議論して減らしていかなければならない。ごみを出さないという社会風土をつくるのに有料化が最も適切という自信がまだない。

【災害瓦礫の受け入れ】

記者／災害瓦礫の処理が全国的に問題になっている。酒田市に受け入れなどの話は？

市長／私のところには来ていない。

【スルメイカの給食提供】

記者／酒田船凍いかを給食で提供するのは初めて？

担当／地元のを提供するの初めて。

記者／「酒田船凍いか」の商標の使用状況は

担当／漁協、スーパーで一部使用がある。

市長／12月1日はイカまつりが吉祥寺で行われる。取材来ていただければ。

以上